

事例 15 地域と連携した松林保全活動

(近畿中国森林管理局 福井森林管理署)



- ・ 福井県敦賀市（つるがし）松原（まつばら）国有林
- ・ （左）気比（けひ）の松原（平成 25 年 2 月）
（右）生徒による松葉かき（令和 4 年 5 月）

福井県敦賀市にある日本三大松原の一つである気比の松原は、福井森林管理署管内の国有林野であり、市街地を潮害から守る機能と、その優れた景観による保健休養機能をあわせ持つことから、潮害防備保安林及び保健保安林に指定されているとともに、名勝、若狭湾国定公園、レクリエーションの森等として、多くの人々に親しまれています。

福井森林管理署では、松くい虫被害等により松林が衰退しつつあり、防災林機能の低下等が危惧されたことから、平成 25 年 3 月に、後世に引き継ぐべき貴重な財産として松原の適正な保全管理に資することを目的に、学識経験者、地元関係団体、行政機関等の多様な主体の協力の下、「気比の松原 100 年構想」を策定しました。

その後、福井森林管理署による松くい虫被害の防除に加え、各主体が連携しながら松原の保全活動を継続して行っています。特に、市民参加型の保全活動では、毎年、近隣の小中学校・高校の児童・生徒と松葉かきや外来植物の駆除を実施しており、松原の保全のみでなく環境教育の一環も担う重要な取り組みとなっています。